

○計画期間：平成30年7月～令和6年3月（5年9月）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和元年度終了時点（令和2年3月31日時点）の中心市街地の概況

平成30年7月以降、認定基本計画に基づき、基本理念「人をつなぐ、地域をつなぐ、未来をつなぐ中心市街地」のもと、各事業を実施している。

近年では中山道馬籠宿の人气が高く、多くの観光客が電車で中津川駅まで訪れている。また全国的な山城人気もあり、中津川駅前から苗木城址へバスで向かう観光客も多い。これらの観光客が中津川駅周辺の人の流れを作り出している。

一方、中心市街地の商店街では、六斎市などの定例イベントを実施した際には前述の観光客を含めた多くの来場者があるが、通常は空き店舗が多く客足も少ない状況である。既存の店舗が閉店した後に出店者が見つからず空き地や駐車場が増加しているため、新規出店を増やすべく、空き店舗の調査及びその所有者と交渉をするなど、空き店舗の所有者と出店希望者のマッチング作業に着手した。

中津川駅周辺にある観光客を中心とした人の流れについては、駅周辺以外へ広がる傾向はみられるが、まだ弱い。現在は滞在拠点の整備に向けて不動産所有者との交渉や、外国人向けの体験メニューの準備を進めているところであり、引き続き中心市街地全体での回遊性を高めていく。

新型コロナウイルス感染症拡大による影響が各所で出始めており、今後の動向に注意している。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

（基準日：毎年度4月1日）

（中心市街地 区域）	平成29年度 （計画前年度）	平成30年度 （1年目）	令和元年度 （2年目）	令和2年度 （3年目）	令和3年度 （4年目）	令和4年度 （5年目）
人口	2,826	2,769	2,714			
人口増減数	▲66	▲57	▲55			
自然増減数	▲29	▲31	▲35			
社会増減数	▲21	▲9	▲16			
転入者数	55	56	72			

※社会増減数には職権で住民登録が抹消された数は含まれていない。そのため、自然増減数と社会増減数の合計は人口増減数と一致しない。

2. 令和元年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

新型コロナウイルス感染症の影響により外出自粛要請が出され、イベント中止、観光客の減少、都市福祉施設の閉鎖等により、計画遂行に少なからず影響が出ているが、まずは感染症拡大防止対策を最優先に取り組み、収束後は以前と同じにぎわいを回復できるよう取り組んでほしい。

来るリニア時代、中心市街地活性化のために（仮称）市民交流センター事業と駅前広場整備事業は不可欠である。市民交流センターは実施計画を策定完了し、駅前広場についても、整備に向けた課題を整理したが、今後イベントとの相乗効果を図りながら、中山道文化を中心とした栗きんとんで有名な和菓子、名誉市民である前田青邨生誕地、命のビザで有名な杉原千畝の遺産の活用など、リニア停車駅にふさわしい魅力あふれる回遊性の高いプロムナードづくりに向けて確実に事業を進めることを強く要望する。

中山道中津川宿六斎市事業をはじめとしたイベントでは、毎回工夫を凝らした内容が好評で、来場者数も順調に増加している。また、この六斎市に関連して行う事業も好調であり、中心市街地活性化に貢献した。

一方で、イベントが開催されていない期間は相変わらず商店街のにぎわいが少ない。また、中津川駅では苗木城跡や馬籠宿へ向かう国内外を問わず多くの観光客を見かけるものの、電車からバスやタクシーに乗り換えて直接観光地へ向かっており、これらの観光客を商店街に誘導できれば、さらなるにぎわいの創出につながると考える。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
商業の活性化による吸引力の強化	新規出店数	31 店舗	50 店舗	34 店舗	B	③	④
観光客を惹きつける資源活用の強化	特定施設等 観光客入込数	123,000 人/年 (H28)	149,200 人/年 (R5)	130,667 人/年 (R1)	B	①	①
市民の居場所や活動の場所としての魅力の強化	都市福祉施設利用者数	153,330 人/年 (H28)	170,400 人/年 (R5)	139,526 人/年 (R1)	C	②	②
	歩行者通行量	4,525 人/日 (H29)	4,954 人/日 (R5)	5,124 人/日 (R1)	A	①	①

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値達成、C：基準値未達成

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。

②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。

④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

(1) 「新規出店数」について

主に空き店舗対策事業及び空き店舗活用支援事業により出店者を支援しているが、出店希望者の意向に合う物件が見つからず、地区内の出店者はこれまでのところ累計で3件にとどまっている。また、2月以降は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により出店を控える動きが見られ、現在のところ目標達成が困難な状況となっている。

(2) 「特定施設等観光客入込数」について

関連する各事業は、独自のイベントの開催効果もあって、1月までは前年度とほぼ同水準で推移していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、2月以降はイベント自粛せざる得なく、前年度実績を8,000人下回ったが、基準値は上回った。感染症が収束しイベントが再開できれば、回復するものと見込んでいる。

(3) 「都市福利施設利用者数」について

各施設とも1月までは前年度とほぼ同じか若干多い程度の利用者数で推移していたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、2月以降一部施設を閉鎖したため前年度と比べて14,000人あまり減少した。感染症が収束し、施設開放とともに利用者数は回復する見込みであるが、増加数は目標を下回っており、目標達成は困難な状況である。

(4) 「歩行者通行量」について

中津川駅からバスで観光地へ向かう観光客を、中心市街地の商店街方面へ誘導することにある程度成功していると推測している。すべての測定地点において、歩行者数が増加しているが、通行量に大きな偏りがあるため、商店街全体を回遊するようにうまく誘導することが今後の課題である。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

(1) 「新規出店数」について

平成30年度のフォローアップにおいて増加数が1件だったため、地区内の全物件の調査を実施し、マッチングの向上を見込んで③と評価したが、新型コロナウイルス感染症拡大により出店自体を控える動きがあり、収束後も不透明のため④に変更した。

(2) 「特定施設等観光客入込数」について

前回から変更はない。

(3) 「都市福利施設利用者数」について

前回から変更はない。

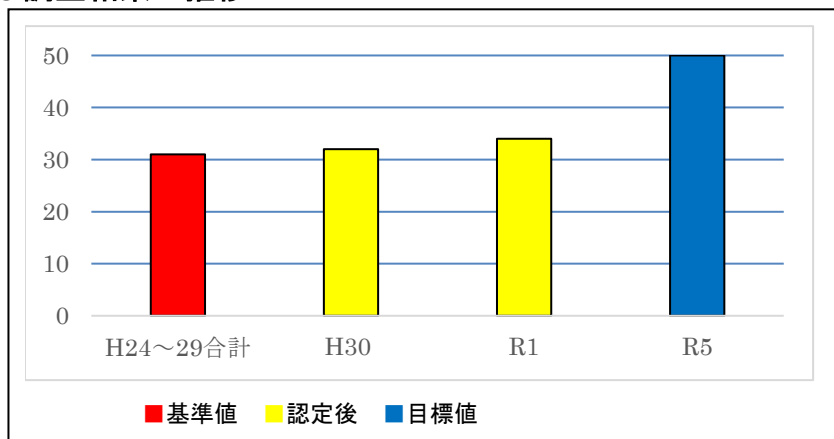
(4) 「歩行者通行量」について

前回から変更はない。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

「新規出店数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 6 7 参照

●調査結果の推移



年	(店舗)
H24~29 合計	31 (基準値)
H30	32
R1	34
基準値	50
+H30~R5 合計	(目標値)

※調査方法：市及び商工会議所が関わった支援の結果、出店に結びついた者の集計

※調査月：毎年3月末

※調査主体：中津川市、中津川商工会議所

※調査対象：中心市街地での出店者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 空き店舗対策事業（まちづくり会社・民間団体）

事業実施期間	平成30年度～令和5年度【実施中】
事業概要	中心市街地に存在する空き店舗や所有者の調査を行いながら、所有者と出店希望者を結び付ける。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	空き家等の現況調査を行い、地図を作成した。地域住民にも地図を確認してもらい情報の精度を高め、今後を活用するための資料を作成した。空き家等の情報の把握により、出店希望者のニーズに合わせた情報提供ができるようになった。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の収束を待って、完成した空き店舗等の地図情報を活用し、出店希望者と空き店舗等所有者を結びつけ、新規出店を促進する。

②. 空き店舗活用支援事業（中津川市）

事業実施期間	平成29年度～令和5年度【実施中】
事業概要	空き店舗を活用して出店する場合に、改修費用の1/2を上限として最大50万円を補助する。

国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	個人事業主の出店時の負担軽減につながるため、市全体で見ると当該事業の利用者は一定数あるが、中心市街地地域では家賃の折り合いがつかず出店に結びつかないことがある。空き店舗活用支援事業を利用した出店は2件あり、空き店舗が減ることで街のにぎわいにつながった。
事業の今後について	過去に当該事業を利用した出店者に対して、出店場所を選んだ理由等を聞き取り調査し、中心市街地地域での制度利用者が少ない原因を分析する。更なる周知を行い、新規出店の促進を行う。

③. 歴史的資産を活用した町家再生事業（まちづくり会社・中津川市・商工会議所・商店街ほか）

事業実施期間	平成30年度～令和3年度【実施中】
事業概要	官民が連携して中津川宿に現存する歴史的建築物を改修し、ゲストハウスや飲食店などとして活用することで、滞在、滞留する観光客数の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	①地域・まちなか商業活性化支援事業費補助金（中心市街地再興戦略事業）のうち調査事業（経済産業省）（平成30年度） ②地域まちなか活性化・魅力創出支援事業費補助金（中心市街地活性化支援事業）のうち先導的・実証的の事業（経済産業省）（令和元年度）
事業効果及び進捗状況	中山道を中心とした中心市街地内の町家に関して、地域住民並びに市内宿泊施設利用者（日本人・外国人両方）を対象に、ニーズ調査、マーケティング調査としてアンケートを実施。ゲストハウスおよびカフェのニーズが高いことがわかった。
事業の今後について	ニーズ、マーケティング調査結果を基にし、建物所有者との折衝、入居者の募集など、改修に向けて準備を進めていく。町家をリノベーションし、令和5年度までに5店舗の新規出店を見込む。

④. トライアルショップ事業（まちづくり会社）

事業実施期間	令和元年度～令和5年度【実施中】
事業概要	まちづくり会社が休業日の店舗等を借り受けてトライアルショッ

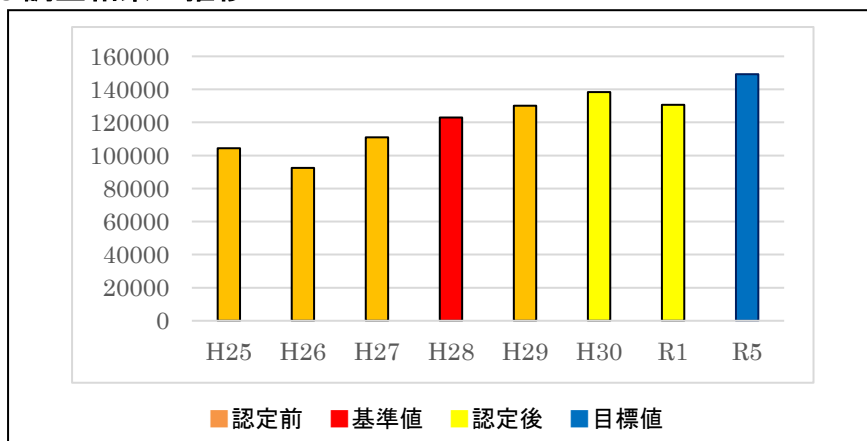
	プとして活用することで、新たな出店希望者の掘り起こしと新規出店に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地商業活性化診断・サポート事業（経済産業省）（令和元年度）
事業効果及び進捗状況	事業者等に短期的に空き店舗等を貸し出しができるよう、現在1件と交渉中である。
事業の今後について	現在交渉中の案件を確実に遂行する。引き続き、商店街と連携し空き店舗でのトライアルショップ出店希望者を掘り起こす令和5年度までに2店舗の新規出店を見込む。

●目標達成の見通し及び今後の対策

これまでのところ、空き店舗を活用した新規出店は累計3件であり、進捗が遅れているため、令和元年度に地区内の全物件の現状調査を地域住民とともに実施し、物件情報把握だけでなく、所有者の希望等を把握した。また、新たに事業を始めようとする方や新たな業種に進出または転換しようとする方を支援する補助制度を市独自に創設し、間接的ではあるが空き店舗対策に活用していく。新型コロナウイルス感染症の影響により出店自体を控える方もおり、目標達成は極めて厳しい状況となっているが、調査結果の活用と創業支援制度を積極活用し、目標達成を目指す。

「特定施設等観光客入込数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 68～P. 69 参照

●調査結果の推移



年	(人/年)
H25	104,400
H26	92,500
H27	111,000
H28	123,000
	(基準値)
H29	130,130
H30	138,378
R1	130,677
R5	149,200
	(目標値)

※調査方法：対象イベント及び施設への年間来場者数の合計

※調査月：毎月1回

※調査主体：中津川市

※調査対象：「春・秋の中山道まつり」、「中山道中津川宿六斎市事業」、「中山道歴史資料館」、「まちなか歴史発見散歩事業」、「地域文化資源を活用した体験型観

光推進事業」、「間家大正の蔵活用公開事業」、「歴史的資産を活用した町家再生事業」

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 春・秋の中山道まつり（六斎市実行委員会・中津川商店街連盟）

事業実施期間	平成20年度～令和5年度【実施中】
事業概要	中津川市内の中山道で行う、商店街が中心となった祭り。商店街が趣向を凝らしたイベントを実施し、集客を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	中山道中津川宿としての知名度向上に寄与しており、毎月の六斎市と同時開催することで、集客力を高めている。来場者数は基準値と比較して7,000増の27,000人となった。知名度向上によりウォーキング団体や観光団体が商店街通りをルートに組み込んで訪れるようになり、にぎわいが創出されている。
事業の今後について	引き続き、魅力的なイベントを企画、広報し、市外からの観光客を取り込むことでにぎわいを増加させるが、新型コロナウイルスの影響が懸念される。

②. 中山道中津川宿六斎市事業（六斎市実行委員会・中津川商店街連盟）

事業実施期間	平成20年度～令和5年度【実施中】
事業概要	江戸時代に中津川宿で開かれていた六斎市を、月に一回定期的に開催する。各店舗の出店と、毎回異なるイベントの開催により集客を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	毎回のイベントに工夫を凝らすことで来場者を飽きさせず、リピーターが増えてきている。夜間開催については、日中は仕事等で都合が付き難い方も参加することができ、より多くの方に魅力を感じてもらうことができた。新型コロナウイルスの影響により、前年と比較して13,500人減少したが、年間45,500人の来場者がまちなかを回遊し、にぎわい創出に貢献した。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の影響で、イベント中止が長期化することが懸念されているが、収束後の回復を目指し、近隣市町村と連携を取りながら事業を推進する。

③. まちなか歴史発見散歩事業（まちづくり会社・中津川市）

事業実施期間	平成30年度～令和5年度【実施中】
事業概要	まちなかの歴史スポットをガイドとともに巡る歴史散策小ツアーを定期開催し、まちなかを回遊する観光客の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	令和元年度は3回開催し、合計52人が参加。ガイドが魅力的な語り口で案内するため、歴史やまち歩きに興味のある参加者が多く集まった。複数ある歴史スポット目指して歩き回るため、まちなかの回遊性が高まった。
事業の今後について	対応できるガイドを1名増やし2名にしたが、受入人数に限界がある。今後も引き続き対応できる人員を養成していくことで、さらなる回遊者の増加が期待できる。

④. 地域文化資源を活用した体験型観光推進事業（中津川商店街連盟・まちづくり会社）

事業実施期間	平成30年度～令和5年度【実施中】
事業概要	まちづくり会社と商店街が連携し、インバウンドを対象にした地域の伝統や文化に触れて体験するツアーを実施し、商店街のにぎわいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	体験メニューとして提供できるものは何かを洗い出し、方向性を検討中。ツアー開催後は、年間120人の利用者を見込む。令和元年度は方向性の検討に着手した。
事業の今後について	商店街が中心となり、外国人向けの浴衣体験や琴の演奏など、どのようなメニューが最善か検討したうえで実施し、集客を目指す。新型コロナウイルスの影響のため、今後のインバウンドの動向に注視する。

⑤. 間家大正の蔵活用公開事業（中津川市）

事業実施期間	令和元年度～令和5年度【実施中】
事業概要	新たな観光スポットとするため、施設を改修、公開する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	新たな観光スポットとして改修・公開することで、既存の歴史的建造物「脇本陣森家」と同等の利用者数5,185人を見込む。商業的活用として、カフェを設置した。令和元年度の来場者数は1,908人で前年度と比べ487人増加した。
事業の今後について	観光資源としてより多くの観光客に利用される機能を検討する。改めて活用方法等を検討し、より魅力的な施設にすることで集客数の増加が見込まれる。

⑥. 歴史的資産を活用した町家再生事業（まちづくり会社・中津川市・商工会議所・商店街ほか）

事業実施期間	平成30年度～令和3年度【実施中】
事業概要	官民が連携して中津川宿に現存する歴史的建築物を改修し、ゲストハウスや飲食店などとして活用することで、滞在、滞留する観光客数の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	①地域・まちなか商業活性化支援事業費補助金（中心市街地再興戦略事業）のうち調査事業（経済産業省）（平成30年度） ②地域まちなか活性化・魅力創出支援事業費補助金（中心市街地活性化支援事業）のうち先導的・実証的事業（経済産業省）（令和元年度）
事業効果及び進捗状況	中山道を中心とした中心市街地内の町家に関して、地域住民並びに市内宿泊施設利用者（日本人・外国人両方）を対象に、ニーズ調査、マーケティング調査としてアンケートを実施。ゲストハウスおよびカフェのニーズが高いことがわかった。 施設所有者との交渉が難航しており進捗が遅れている。
事業の今後について	施設所有者との交渉がまとまり出店者が決まることで、集客・回遊の増加が見込まれる。引き続き所有者と交渉を行っていく。

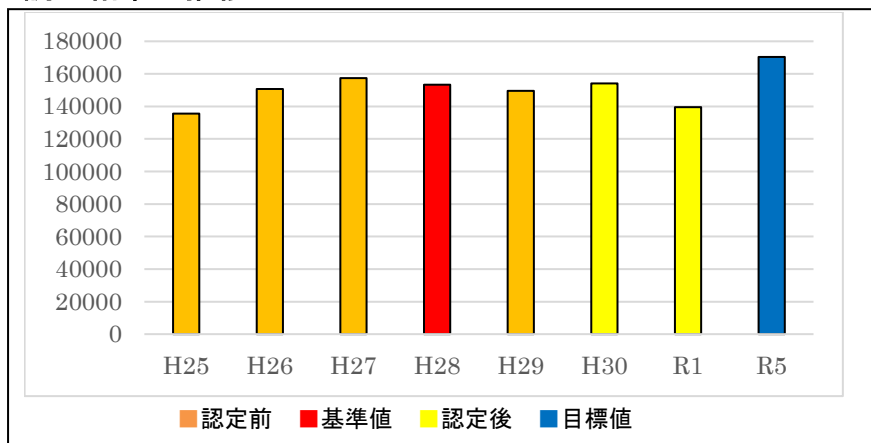
●目標達成の見通し及び今後の対策

外国人観光客の増加、六斎市への来客数の増加等で数値は伸びてきているので、目標

の達成が見込まれるが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、鈍化が懸念される。

「都市福利施設利用者数」※目標設定の考え方認定基本計画P.70～P.72参照

●調査結果の推移



年	(人/年)
H25	135,562
H26	150,694
H27	157,385
H28	153,330 (基準値)
H29	149,553
H30	154,115
R1	139,526
R5	170,400 (目標値)

※調査方法：対象施設の年間利用者数を合計

※調査月：毎年3月末

※調査主体：中津川市

※調査対象：「にぎわいプラザ（貸部屋）」、「にぎわいプラザ子育て支援センター」、「中央公民館（貸部屋）」、「まちなかステーションねこのて」

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 新町ビル跡地開発事業【子育て支援機能】（中津川市）

事業実施期間	令和元年度～令和4年度【実施中】
事業概要	子育て支援、観光案内機能等を持ち合わせた複合的都市福利施設の整備を行い、まちなかのにぎわいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	子、親、祖父母の3世代の交流の場としての機能を備え、多くの市民の快適な居場所となり、街中の賑わいを創出する。年間10,161人の来館者を見込む。令和元年度は社会資本総合整備計画を策定した。
事業の今後について	令和5年度の供用開始に向けて、令和2年度より設計を行う。

②. まちなかステーションねこのて事業（中心市街地活性化協議会）

事業実施期間	平成27年度～令和5年度【実施中】
--------	-------------------

事業概要	親子を対象にした飲食の提供、母親同士のコミュニケーションの場を提供し、子育て支援の拠点となる事業である。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	新たな利用者を増やすため、中山道六斎市の日にも営業するなど見直しを行い、利用者数が 3,225 人と基準値と比較して 22 人上回った。普段訪れることのない市民に対して認知度の向上を図った。
事業の今後について	提供するサービスの魅力を高め、利用者数を増やしていく必要がある。子育てに関する各種企画等の講座に力を入れ、来場者の増加を目指す。

③. 新町ビル跡地開発事業【貸施設機能】（中津川市）

事業実施期間	令和元年度～令和4年度【未】
事業概要	子育て支援、観光案内機能等を持ち合わせた複合的都市福利施設の整備を行い、まちなかのにぎわいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	令和元年度は社会資本総合整備計画を策定したが、貸施設機能についての具体的な検討までは至っていない。市民や団体の活動、各種イベントに活用されることで、年間 5,400 人の利用が見込まれる。市民が交流することで、まちなかの人の流れの増加に効果がある。
事業の今後について	令和5年度の供用開始に向けて、令和2年度より設計を行う。

④. にぎわいプラザ利活用促進事業（中津川市）

事業実施期間	平成20年度～令和4年度【実施中】
事業概要	様々な用途でつかえる会議室、個展やイベント等が開催できる展示スペース、オフィススペース等を提供する。市民や団体が利用することで駅前のにぎわいが創出される。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	新型コロナウイルスの影響により、2月以降利用キャンセルの動きが見られ、年間利用者数は 51,504 人と前年度より 2,809 人下回っ

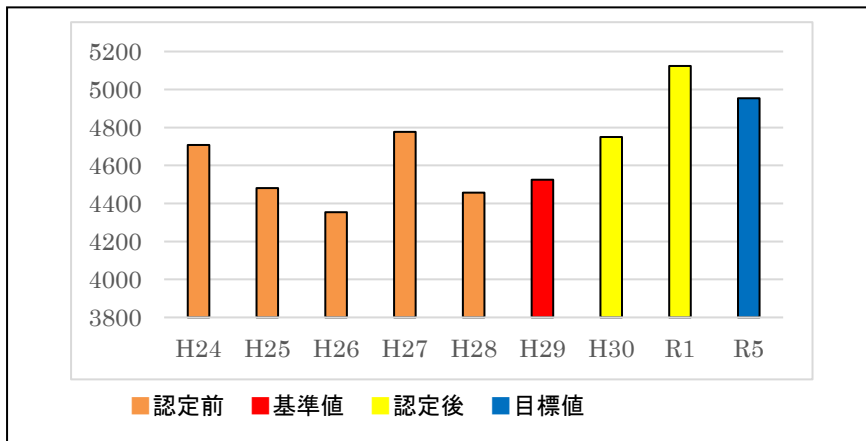
	た。
事業の今後について	感染症の収束とともに、利用者数は回復すると見込んでいる。引き続き、利用者からの要望にできる限り答えることで利便性・快適性を高め、利用者数の増加を目指す。

●目標達成の見通し及び今後の対策

年々利用者数は増加傾向にあるが、見込みより低く、現在のペースでは目標達成が難しい。その原因としては、施設の稼働率には余裕があるが、利用される部屋及び時間帯には偏りがあるため、利用者が他施設へと流れていくからだと思われる。貸し出しできる部屋情報を、利用申し込み時お知らせすることや市ホームページに掲載して情報提供することで周知を図り、潜在的なニーズを掘り起こしていく。利用が少ない部屋と時間帯の稼働率を上げ、利用者増を目指す。

「歩行者通行量」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 73～P. 74 参照

●調査結果の推移



年	(人/日)
H24	4,708
H25	4,481
H26	4,354
H27	4,777
H28	4,457
H29	4,525
	(基準値)
H30	4,750
R1	5,124
R5	4,954
	(目標値)

※調査方法： 実質測定値

※調査月： 毎年9月末（平日）

※調査主体： 中津川市

※調査対象： 中心市街地内5ヶ所（葛勘商店前、スズヤカメラ前、十六銀行前、駅前ビル東側、大鋸酒店前）を通行する歩行者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 新町ビル跡地開発事業（中津川市）

事業実施期間	令和元年度～令和4年度【実施中】
事業概要	子育て支援、観光案内機能等を持ち合わせた複合的都市福利施設の整備を行い、まちなかのにぎわいを創出する。

国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	子育て支援の場として年間 10,161 人の来館者、また市民や団体の活動の場として年間 5,400 人の利用を見込む。来館者がまちなかに流れ、歩行者数の増加に貢献する。令和元年度は社会資本総合整備計画を策定した。
事業の今後について	令和5年度の供用開始に向けて、令和2年度より設計を行う。

②. 統一案内サイン整備事業（中津川市）

事業実施期間	平成30年度～令和2年度【実施中】
事業概要	中津川駅前から中山道エリアに至るまでの案内機能を充実させることで、観光客をまちなかへ誘導し回遊性を高める。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	協議会の意見を受けて、令和元年度は QR スマートフォンと連動した観光案内看板のデザインおよび設置場所について検討を行った。活用できそうな国の支援制度を検索した。新型コロナウイルスの影響により、現在事業を中断している。
事業の今後について	観光振興事業費補助金（観光地の「まちあるき」の満足度向上整備支援事業）を活用し、無線LANの整備を令和2年度に行う。但し、新型コロナウイルスの影響により、インバウンドの動向を注視しながら整備を進めていく。

③. 旧中津川幼稚園跡駐車場整備事業（中津川市）

事業実施期間	令和4年度【未】
事業概要	新町ビル跡地開発事業に合わせて駐車場を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	新町ビル跡地に建設される施設利用者の利便性を高め、利用者数を増加させるとともに、まちなかへの回遊性を促進させ、1日あたり43人の歩行者数の増加に貢献する。新町ビル跡地開発と併せて事業

	を実施していく。
事業の今後について	新町ビル跡地開発事業に合わせて事業を実施する。当該事業については、令和3年度以降に具体的設計を行う予定である。

④. にぎわい広場駐車場整備事業（中津川市）

事業実施期間	令和4年度【未】
事業概要	新町ビル跡地開発事業に合わせて駐車場を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	新町ビル跡地に建設される施設利用者の利便性を高め、利用者数を増加させるとともに、まちなかへの回遊性を促進させ、1日あたり43人の歩行者数の増加に貢献する。新町ビル跡地開発と併せて事業を実施する。
事業の今後について	新町ビル跡地開発事業に合わせて事業を実施する。当該事業については、令和3年度以降に具体的設計を行う予定である。

⑤. 空き店舗対策事業（まちづくり会社・民間団体）

事業実施期間	平成30年度～令和5年度【実施中】
事業概要	中心市街地に存在する空き店舗や所有者の調査を行いながら、所有者と出店希望者を結び付ける。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	空き家等の現況調査を行い、地図を作成した。地域住民にも地図を確認してもらい情報の精度を高め、今後に活用するための資料を作成した。空き家等の情報の把握により、出店希望者のニーズに合わせた情報提供ができるようになった。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の収束を待って、完成した空き店舗等の地図情報を活用し、出店希望者と空き店舗等所有者を結びつけ、新規出店を促進する。

⑥. 歴史的資産を活用した町家再生事業（まちづくり会社・中津川市・商工会議所・商店

街ほか)

事業実施期間	平成30年度～令和3年度【実施中】
事業概要	官民が連携して中津川宿に現存する歴史的建築物を改修し、ゲストハウスや飲食店などとして活用することで、滞在、滞留する観光客数の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	①地域・まちなか商業活性化支援事業費補助金（中心市街地再興戦略事業）のうち調査事業（経済産業省）（平成30年度） ②地域まちなか活性化・魅力創出支援事業費補助金（中心市街地活性化支援事業）のうち先導的・実証的事業（経済産業省）（令和元年度～令和2年度）
事業効果及び進捗状況	昨年度実施したアンケート結果に基づき、該当町家2件を選定して所有者と交渉に着手した。
事業の今後について	施設所有者との交渉を継続していく。今後その町家を改修することで、集客数・回遊の増加が見込まれ、歩行者通行量も増加する。

⑦. トライアルショップ事業（まちづくり会社）

事業実施期間	令和元年度～令和5年度【実施中】
事業概要	まちづくり会社が休業日の店舗等を借り受け、トライアルショップとして活用することで、新たな出店希望者の掘り起こしと新規出店に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地商業活性化診断・サポート事業（経済産業省）（令和元年度）
事業効果及び進捗状況	空き店舗対策事業で作成した空き店舗等の情報を活用し、商店街入口にある空き店舗を対象物件として、所有者と交渉中。
事業の今後について	引き続き物件所有者と交渉を行う。また、空き店舗対策事業で作成した空き店舗等の情報を使い、商店街と連携し空き店舗でのトライアルショップ出店希望者を掘り起こし、歩行者数が増加する。

⑧. まちなか通行手形事業（まちづくり会社）

事業実施期間	令和元年度～令和5年度【実施中】
--------	------------------

事業概要	商店街での商品購入の際に、ポイントの付与や優遇特典等を手形として発行する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	実施方法に関する情報の収集と検討に着手した。令和元年度は先進地の視察を実施した。実施方法について検討開始したが、新型コロナウイルスの影響により、現在中断している。
事業の今後について	新型コロナウイルスの収束を待って、実施方法の検討を再開する。方法が決まり次第、協力店舗を募集して事業を実施する。商店街への来場者が増え、歩行者通行量の増加が見込む。

⑨. まちなか美術館事業（中津川市）

事業実施期間	平成30年度～令和5年度【実施中】
事業概要	中心市街地の商店や公共施設等に市や団体、個人が所有する絵画を展示することで、有名な画家を多く輩出した文化のまちのイメージを高める。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	令和元年度は、にぎわいプラザ内に展示できるギャラリーを設置し、書道展と写真展を実施。合計で約600人が来場した。
事業の今後について	空き店舗を一時的に活用し、商店街内でも絵画等を設置できる場所を検討する。美術に関心のある者が訪れて回遊性が上がり、歩行者数の増加が見込まれる。

⑩. 間家大正の蔵活用公開事業（中津川市）

事業実施期間	令和元年度～令和5年度【実施中】
事業概要	新たな観光スポットとするため、施設を改修、公開する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	大正時代の建築物を展示会や飲食等ができる観光スポットとして整備し、観光客入込数の増加に寄与する。令和元年度はカフェを設置。来訪者は1,908人で前年度と比べて487人増加した。

事業の今後について	観光資源としてより多くの観光客に利用される機能を検討する。より魅力的な施設にすることで集客数が上がり、歩行者数の増加が見込まれる。
-----------	---

⑪. まちなかステーションねこのて事業（中心市街地活性化協議会）

事業実施期間	平成27年度～令和5年度【実施中】
事業概要	親子を対象にした飲食の提供、母親同士のコミュニケーションの場を提供し、子育て支援の拠点となる事業である。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	新たな利用者を増やすため、中山道六斎市の日にも営業するなど見直しを行い、利用者数が3,225人と基準値と比較して22人上回った。普段訪れることのない市民に対して認知度の向上を図った。
事業の今後について	提供するサービスの魅力を高め、利用者数を増やしていく。子育てに関する各種企画等の講座や三世代交流事業に力を入れ、来場者の増加を目指す。

●目標達成の見通し及び今後の対策

観光客は鉄道を利用して中津川駅へ訪れ、バスやタクシーに乗り換えて市内の観光地へ移動している。鉄道を利用する観光客は車の駐車場所を気にせず徒歩で商店街を回りやすいが、商店街の店舗情報を入手しにくい。六斎市等のイベントの間接的な効果もあり、日中の歩行者数は増加しているため、これらの効果を活かしながら、現在中断している統一案内サイン事業及びまちなか通行手形事業を、コロナウイルス収束を待って取り組んでいく。